

幼稚園教育>



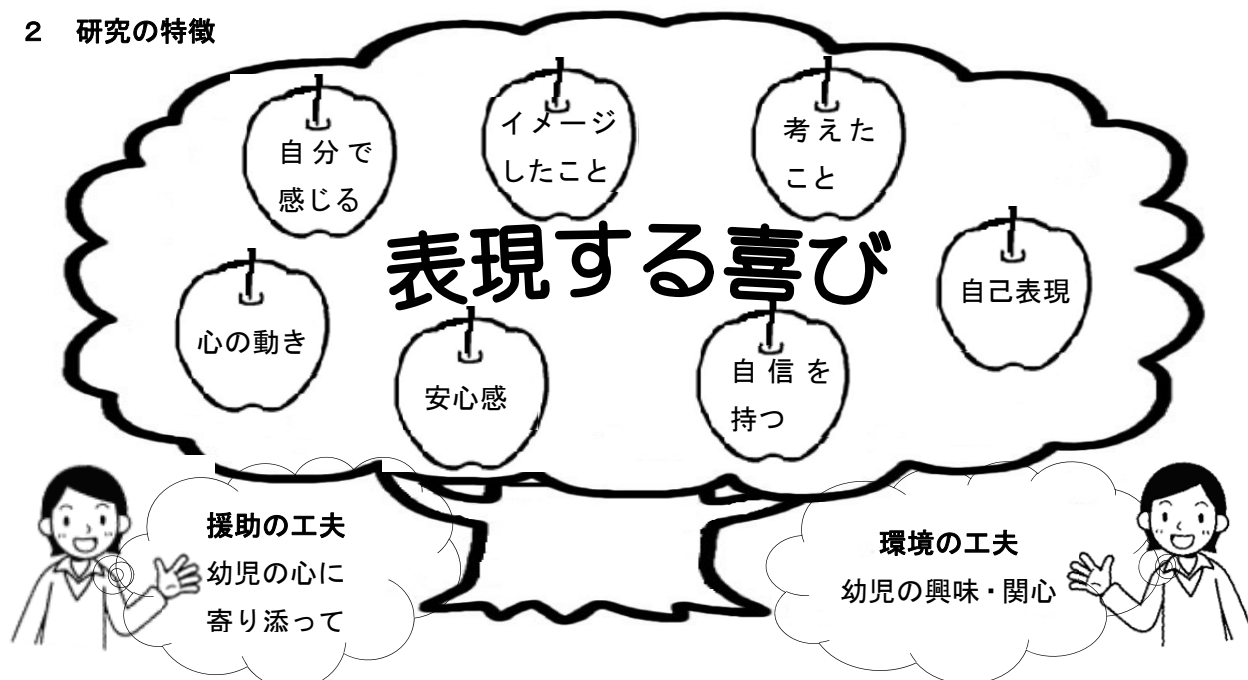
表現する喜びを味わわせるための環境や援助の工夫 ～友達と一緒に創る表現遊び～

南風原町立北丘幼稚園教諭 桃 原 真 子

1 研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると、教師主導型で保育を進め幼児のやりたい気持ちより、教師のさせたい気持ちが優先した表現活動になっていたと反省する。そこで、友達と一緒に創っていく表現遊びを楽しむことで、表現する喜びを味わうのではないだろうかと考え本テーマを設定した。

2 研究の特徴



3 保育の実践



保育実践 1 いろいろな素材に触れて
自分なりのイメージで楽しむ



保育実践 2じっくり素材にかかわって
友達とイメージを共有して楽しむ

4 研究の成果

幼児がイメージしたことを実現するためには、幼児の興味・関心をもった多種多様な素材を使えるようにすることや、動線を考えた環境を工夫することで、表現する意欲を高めることができた。また、幼児の心に寄り添い、幼児が素材そのものとじっくりかかわれるように援助を工夫することで、表現する喜びにつながった。

表現する喜びを味わわせるための環境や援助の工夫

～友達と一緒に創る表現遊び～

南風原町立北丘幼稚園 桃原真子

I テーマ設定の理由

近年、情報化、都市化、少子化等、子どもを取り巻く環境の変化が幼児の遊びにも影響を及ぼしている。精巧なおもちゃやゲーム、テレビやインターネットなどで遊ぶ機会が増え、知識は、増えている。その一方で幼児の遊びが、断片的で受け身的なものであることが多く直接的、具体的な体験が乏しくなっている。また、友達と一緒に遊びを創り出したり、身近なものや自然物を使って自分で何かを作ったり工夫して遊ぶ機会が少なくなっている。実際に本園の家庭での遊びのアンケートにおいても、「家庭で主にどんなことをして遊んでいる。」の問いに「テレビを見る」「購入したおもちゃで遊ぶ」「ゲームをすること」が上位を占め、その結果からみても、友達と遊ぶ経験や自分達でものを作って遊ぶ楽しみが少ないと思われる。

幼稚園教育要領の感性与表現に関する「表現」内容（5）の「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。」で、「一つの表現にこだわりながらいろいろな物を工夫して作ったりする中で、その特性を生かした使い方に気付いていくなどの多様な体験は、表現の幅を広げ、表現する意欲を育てる上で重要である。」と、述べている。また、感性与表現に関する「表現」の内容の取り扱い（3）では、「生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることが出来るように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。」とあり、教師の援助として幼児の心に寄り添いながら適切な援助をすることが大切である。

本園の幼児の実態では、テレビ番組をまねてのリズムダンスで楽しんで踊っている姿や、ペットボトルに水を入れてつなげて水の流れを見たりするなどの個々で試す姿は見られるが、友達と一緒に思いを出し合ってじっくり遊んだり、工夫して何かを作ったりするまでにはいたっていない。また、幼児なりの表現が、周りの友達に受け止められずに「もっと、やってみたい」という意欲につながらず、遊びが充実したものになっていない。

これまでの保育を振り返ってみると、教師主導型で保育を進め、幼児のやりたい気持ちより、教師のさせたい気持ちが優先した表現活動になっていたと反省する。また、幼児一人一人の思いを受け止め、主体的に遊べるような環境づくりや援助が十分ではなかった。

そこで、友達と一緒に創っていく表現遊びを楽しむことで、表現する喜びを味わうのではないだろうかと考えた。そのための環境や援助の工夫を研究したいと思い、本テーマを設定した。

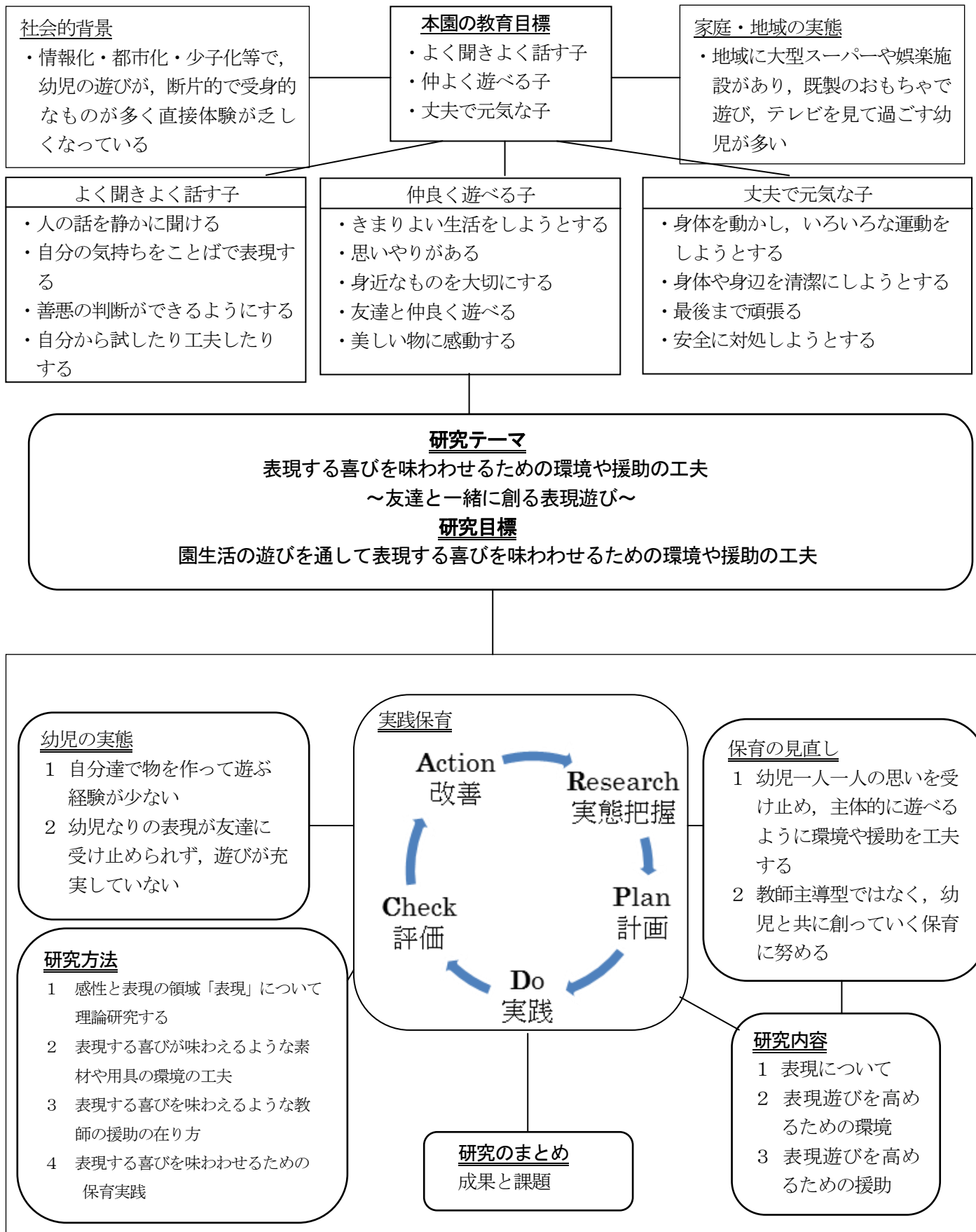
II 研究の目標

遊びを通して表現する喜びが味わえるような環境や援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 感性与表現の領域「表現」についての理論研究
- 2 表現する喜びが味わえるような素材や用具の環境の工夫
- 3 表現する喜びが味わえるような教師の援助の在り方
- 4 表現する喜びを味わわせるための保育実践

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 表現について

(1) 表現とは

表現とは、「内面にある世界を、なんらかの感動を伴って、言葉・動き・音・色・形などの手段で、外部にだすことである。」と、西久保礼造の著「保育実践用語辞典」に記載されている。

表現とは、人が、毎日の生活の中で、気持ちを表す行為であり、表現によって、人は感じること・思うことを伝えることができる。このことから、表現は、自己実現の行為であると捉える。

(2) 幼児の表現

日常生活の中で、幼児自身が感じたり、考えたりする心の動きを自分のやり方で自分らしく表現することは重要なことであり、内面からあふれでたものすべてを幼児の表現と捉える。幼児の表現は、経験も少なく表す手段や方法も知らないので未熟で、完成されたものでない場合も少なくない。それゆえ、幼児が出会ったことがらに対し、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを楽しみ、創造する喜びを積み重ねていくことは、幼児が表現する喜びを味わわせるためには大切である。

(3) 表現を楽しむ過程と教師の役割

幼児が表現を楽しむ過程と教師の役割を図1のように考える。幼児は、教師と信頼関係の基に見守られているという安心感に支えられ、五感（目・耳・鼻・舌・皮膚）を通して様々な出来事と出会い、心を動かす体験をすると、幼児はその感動を教師や友達に伝えようとする。また、幼児の感動を伝えようとすることを受け止めてくれる教師や友達がいることで、表現する意欲が高まる。そして幼児は、幼児なりの思いを音や声、身体の動き、色や形、素材とのかかわりを通して、感じることを、考えること、イメージしたことを行動する。

そのことから、教師は、幼児が表現するにはどんな環境をつくり、やってみようと思うのかを素材を精選し、幼児が困っていることがある時には、共に考えてみる。（理解者としての役割）また、幼児は全身で表現することから教師も幼児と一緒に遊ぶこと（共同作業としての役割）で幼児の行動を理解することや憧れを形成するモデルとしての役割や一人一人の発達に応じてタイミングよく援助することや幼児自らが活動を選択していくことができるように幼児とかかわっていくことが大切である。

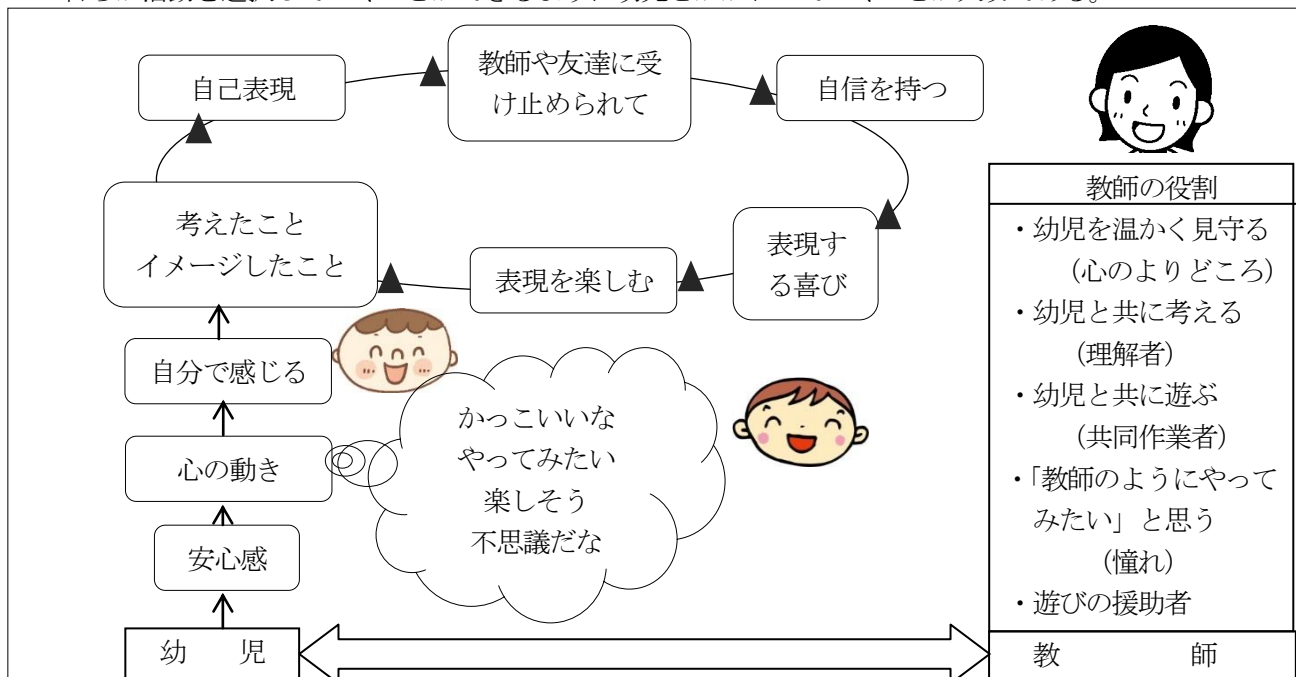


図1 表現を楽しむ過程と教師の役割

(4) 表現する喜びを味わわせる

「表現」の解釈として、今回大切にされていることは、「心の動き」ということである。心の動きは、今日の体調や気持ちによって変わり、感じ方がかわれば、考え方や行動も変わってくるので、特定の表現活動に偏るのは、望ましくないと考えられる。また、情動的なエネルギーを思い切りはき出し、ものに触れて力の限りぶつけることなど、心の動きに呼応した「表現」活動こそが人間らしさを求め育てる保育であるとする。表現は、人が人らしく生きていくうえで欠かせない能力である。特に幼児の場合、生活の中で、かかわりたくなる環境（人的・物的・空間的）があつてこそ幼児の心は、動き、誰かに受け止められる安心感があつて初めて、のびのびと自己を発揮し、一緒に遊ぶ友達がいることで、表現する喜びを味わうようになる。

(5) 友達と一緒に創る

一人一人の幼児は、自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験を通して、自信をもつようになる。また、友達の良さを知る過程において、自己を主張することで、友達とのことで葛藤するが、友達と楽しく遊ぶには、自分の気持ちを抑える必要があることにも気づいていく。このように幼児は、友達とのかわりから、葛藤するなかで自分と異なったイメージや考え方をもった存在に気づき、かかわりが深まることで、幼児同士で試行錯誤しながらも友達と一緒に活動することが楽しいと思えることが大切である。

2 表現遊びを高めるための環境

幼児は自分の存在を実感し、安定した気分になってはじめて、心を動かされる身近な環境と出会い、「やってみたい」「楽しそう」と興味や関心を持ち、遊びの中に取り込んでいくと考える。そこで、幼児が自分なりの方法で表現していくためには、いろいろな素材との出会いから、いろいろな使い方をしたり、物を作ったりする。あるいは、工夫して作ったりする中で、特性を知り、その素材を生かした使い方に気づいていく。

そこで幼児の遊びの姿から素材・用具が日常的に触れられるよう見通しをもって準備するが、教師がすべての環境をつくるのではなく、幼児自ら工夫し、環境にかかわっていけるようにすることも大切である。

また、幼児がお互いの活動を見たり聞いたりして相手の表現を感じ取れるように、場や物の配置に配慮したり、幼児同士の表現が相互に響き合う環境を工夫することも大切である。

3 表現遊びを高めるための援助

幼児は、身近な素材に触れて、生活の中で体験したことや思ったことをかいたり、つくったり、遊びに使ったり、飾ったりして楽しんでいる。また、素材を組み合わせで何かに見立て、遊びのイメージをもち、それにかき加えたり、つくり直したりすることを楽しみながら、次第に遊びのイメージを広げたりすることもある。幼児なりの思いや楽しみで、自分で考え、思いついて、こうやってみようかなということ満ち足りていけるように幼児が興味をもったことに寄り添った援助を心がける。教師の喜怒哀楽の表現が幼児に影響を及ぼすことを留意し、幼児が何を表現したいのかを肯定的に共感していき、幼児の表現する過程を大切に、幼児同士が意見を出し合えるように、幼児が表現したくなるような雰囲気をつくることも必要である。そして、幼児自身の表現を高めるには、教師自身も日々の生活のなかで、街のようすや社会の動き、出会う人たちのなかに何かを感じて考えながら過ごすことが、幼児の表現を援助する目を養っていくことにつながる。

また、教師自身が表現力を磨き、幼児自身の表現をはぐくむように努力することも大切である。

VI 研究の実際

1 保育実践（1回・11月）「いろいろな素材に触れて遊ぶ」（自分なりのイメージで楽しむ）

(1) 設定の理由

幼稚園教育要領の領域5感性と表現に関する領域「表現」の内容（5）の「いろいろな素材に親しみ工夫して遊ぶ。」より、いろいろな物を工夫して作ったりする中で、その素材の特性に気づき工夫する体験をしていくために素材や用具を整えたり、他の幼児の表現に触れられるように配慮したり、表現する過程を大切にしていくことで、幼児なりに感じたことや考えたことを表現していくのではないかと考え、幼児が自分なりのイメージを実現できるような環境構成や援助の在り方を考えていくことを設定の理由とした。

(2) 保育のねらい

いろいろな素材を使って、友達と思いや考えを伝えようとしながら遊ぶ。

(3) 検証のねらい

幼児の興味・関心のあるいろいろな素材を準備することで「やってみたい」という意欲を高め、友達と表現する喜びを味わわせられるような環境や援助を工夫する。

(4) 環境の工夫の視点

- ①幼児の興味や関心のある素材・用具を準備する。
- ②幼児の動線に合った、環境の工夫。

(5) 援助の工夫の視点

- ①幼児の心に寄り添った援助の工夫。
- ②幼児の表現を温かく見守り、共感することで表現を楽しめるような援助の工夫。

(6) 実践の流れ

月 日	検証の ねらい	予想される 幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
11 月 9 日 (水)	・幼児なりにイメージしたものが作れるような素材や用具を準備する。	・いろいろな素材に興味・関心をもち、自分なりにイメージしたものを作る。	○素材：段ボール箱（数多く）・わりばし・カラービニール袋・牛乳パック・板 段ボール・ペットボトル 用具：はさみ・布粘着テープ・セロハンテープ・ボンド・紙テープ等を種類別に分類して置く。 ★遊びの姿から必要と思われる素材や用具を準備する。	・小学2年生との交流の経験から、コマをイメージし、コマ作りを楽しむ姿が見られた。 ・幼児一人一人が、段ボールをつなげていき、海賊船をそれぞれの幼児の中でのイメージで作っていく姿がみられた。 ・海賊船を作りたいけれど、仲間に入れなかった幼児も一人の幼児が誘うことで仲間に入れた。	・幼児の興味・関心の読み取りが十分ではなかった。
11 月 10 日 (金)	幼児に寄り添った援助の工夫をする。	海賊船・衣装コマを作ることを楽しむ。	★幼児が自分なりに考えたアイディアを認め、工夫しているところを認める。	・それぞれの幼児のイメージした遊びを友達と思いを伝え合いながら、遊びに必要なものを楽しんで作っている姿が見られた。（海賊船・コマ作り・衣装作りなど）	・一人一人の思いを受け止めたことで作って遊ぶ意欲につながった。



「ワンピース
を作ってみよ
うかな!」

11月14日(月)	・幼児同士がイメージしたことを実現できるように援助の工夫をする	前日の海賊船作りや・こま作り・衣装作りの遊びの続きを楽しむ。	○教材研究をする。 ★幼児の思いを聞きながら、「手伝って」と、話すときには、手伝うようにする。 ★幼児が、イメージしているところや遊びの姿でのつぶやきを聞きながら、教師も幼児と共に素材を探し、幼児の考えを受け止めていくようにする。 ○幼児が使いやすいようにCDデッキを準備する。	(レーシングカー作り) ・レーシングカーを作りたい思いから、発砲トレーを幼児が、家から持ってきて、長さの違う爪楊枝をつなげタイヤをつなぐ棒にし、試行錯誤しながら作る姿が見られた。 (衣装作り) ・「マイクが欲しいな〜」と、つぶやきながら素材を探し友達に「紙丸めればいんじゃない」と、アイディアをもらい、歌うためのマイクを作る姿が見られた。	・一人一人の幼児がイメージをもって作ることを楽しんでいたら、友達とイメージを共有して遊ぶまでにはいかなかった。 ・じっくりと作る時間や場を保障することの必要性を感じた。
15日(火)	・必要な素材を準備する	「どうやって作ればいいのか」			



(7) 保育の展開

指導案	平成 23 年 11 月 16 日 (水)	北丘幼稚園	男児	16 名	16 名	計 32 名
前日までの幼児の姿		◇予想される幼児の姿 ○環境構成 ★教師の援助				
・友達と関わって、自分の思いや考えを伝えたり、一斉に製作した楽器をもちいて、簡単な曲に合わせて踊ったり、好きな曲を気の合う幼児同士で踊る姿があった。 ・自分たちで作りたいと話していたレーシングカーで、作ることが難しいが試行錯誤しながら作る姿があった。 ・女児で衣装作りを友達と思いを出して作り、自分でイメージしたことができないときに教師に援助を求める姿があった。 ・海賊船作りから海賊船に使うということで、的当てゲームになっていた		衣装作り ◇友達と思いを出し合って作る。 ○今まで作った、マイクや手作りの楽器を使いやすい場所に置く。 ★作るところが難しいと話したときに援助したり、一緒に考えたりする。 製作遊び ◇折り紙の本をみながら手裏剣などを作り、トレーやかた段ボールを使ってレーシングカーを作って遊ぶ。 ★チラシを折り紙の大きさに切って準備する。★レーシングカーを作りたい思いを実現できるように援助する。				
○ねらい *内容		踊ったり・歌ったりする ◇好きな曲を歌ったり、踊ったり、手作り楽器を使って楽器遊びをする。 ★友達同士で表現している姿に共感していく。 海賊船製作 ◇一人一人が、思いを出しながら、船を作っていく。 ○段ボール・ガムテープ・紙テープ・割り箸やはさみをおく箱を準備する。★言葉かけややりとりをみながら、それぞれの思いを受け止めてい				
○いろいろな素材を使って、友達と思いや考えを伝えようとしながら、遊ぶ。						
*自分なりに感じたり考えたことを作ったり、音や動きで表わしたりする。						
時間	幼児の予想される活動					
9:00	室内遊び ・レーシングカー・海賊船・まとあて・衣装作り・ダンス・歌う・手作りの楽器遊び					
10:15	～担任へ引き渡す～					
反省 評価	・いろいろな素材を使って、友達と考えを伝えようとしながら、遊ぶことができたか。					

(8) 検証の結果

【幼児の変容】

- ・材料を豊富に準備することで、幼児なりに作ることを楽しみ、同じ興味をもった幼児同士がかかわるきっかけになった。
- ・同じ場で、作ったりすることで、わからないことがあると、その場にいる幼児に作り方を教えてもらい幼児同士刺激を受け、「やってみよう」とする姿が見られた。
- ・幼児一人一人の表現を教師や友達に受け止められることで、自由に表現しようとする姿が見られた。

【改善点】

- ・幼児の興味・関心に添った素材を精選し、友達とイメージを共有して遊べるような環境や援助の工夫をする。
- ・遊ぶ時間を十分に保障する。

環境の工夫の視点①〈幼児の興味関心のある素材〉



素材（牛乳パック・落ち葉・ビニール・わりばし・発砲トレイ・板段ボール・ペットボトル・モール・段ボール箱）を数多く準備したことで、素材を使って作りたい気持ちが出てきた。

環境の工夫の視点②〈動線に合った環境〉



・大型積木を組み合わせた舞台を作ることによって幼児の踊りたい気持ちがわき、同じ興味のもつ幼児とのかかわりの場になった。

援助の工夫の視点①〈同じ興味をもった幼児とのかかわり〉



幼児がやってみようとしたことを実現できるように困っていることを教師が手伝ったりすることで幼児同士のかかわりをもつきっかけ作りになることもある。

援助の工夫の視点②〈幼児が思いを表す〉



幼児が思いを出したときにその幼児の気持ちになって話を聞くことで、幼児の心が安定していく姿がみられた。

2 保育実践（2回・12月）「じっくり素材にかかわって遊ぶ」（友達とイメージを共有して楽しむ）

(1) 設定の理由

幼児がイメージしたことを実現するには、第1回目の検証保育の課題を考慮し、一人一人が表現する喜びを味わい友達とイメージしたことを実現できるような環境構成や援助の在り方を考えていくことを設定の理由とした。

(2) 保育のねらい

- ・自分の思いを表したり、伝えたりしながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

(3) 検証のねらい

- ・素材を精選し、準備することで幼児がイメージしたことを実現しようとするための時間を保障することから表現する喜びを味わわせるような環境や援助の工夫をする。

(4) 環境の工夫の視点

- ①幼児の興味・関心のある素材を精選する。 ②素材とじっくりかかわれる場をつくる。
- ③幼児の動線に合った、環境を工夫する。

(5) 援助の工夫の視点

- ① 幼児が興味をもったことに寄り添った援助の工夫。
- ② 幼児の表現を温かく見守り、共感することで表現を楽しめるような援助の工夫。

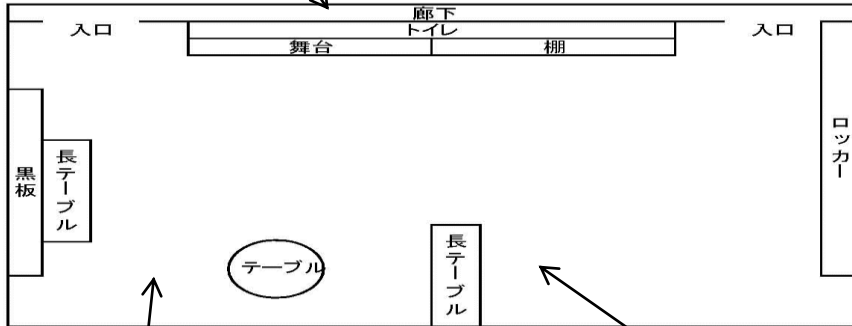
(6) 実践の流れ

月 日	検証の ねらい	予想される 幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
11 月 24 日 (木)	・保育室に準備した、素材や用具に触れ、自分なりにイメージしたものが作れるように環境の工夫をする。	・素材や用具に触れ、自分なりにイメージしたものを作る	○200mlの牛乳パック チラシ（折り紙サイズ）・セロハンテープを長い机に種類別に数を減らし準備する ★幼児の遊ぶ姿を見守りながら、必要な素材を準備する。 ○手作りのおもちゃを作る本を幼児の目の届く場所に置く。	・牛乳パックを犬に見立て犬の絵を描くことを楽しむ姿が見られた。 ・チラシの折り紙で「よく飛ぶ飛行機〇〇作って～」と、友達に作ってもらう姿が見られた。 ・気の合う友達と、廊下に椅子を壁に見立て、「ここは、秘密基地です。入らないで」の表示をはり、友達とのかかわりを楽しむ姿が見られた。	・幼児の興味・関心のある素材を準備したことで自分なりにイメージしたことを表現し、友達とのかかわって遊びたいという意欲につながった。
11 月 28 日 (月) ・ 30 日 (火)	・素材や用具を新たにだすことで、幼児同士でイメージをだし合い、遊ぶ楽しさ味わえるようにする。	・ペットごっこ ・チラシで 手裏剣・飛行機 ・しかけごっこ ・動物のワニ作り	○友達との遊びが、より楽しめるように麻ひもや段ボール箱を準備する。 ○しかけごっこで段ボールを切るときにカッターでは、切りにくそうだったので段ボールカッターを準備する。 段ボール（1個）を準備する。 ○手作りのおもちゃを作る本を幼児の目の届く場所に置く。 ★思いを出して試して作っているところで困っている姿がある時には、手伝う ★幼児同士のつぶやきを聞きながら、遊びを進めていく姿を認めていく。	・牛乳パックのペットにひもをつなげて「散歩だよ」と話し、つれて歩き、舞台を使って、ペットショーをする姿が見られた。 ・廊下で気の合う友達同士でしかけ作りをする姿が見られた。 ・折り紙や工作を作る本を見ながら、作り、作れないところは教師に「ここがわからない」と話し、手伝ってもらいながら作る姿が見られた。 ・一人の幼児が作ったものを興味のある幼児が「俺のも作って」と、話し、かかわる姿が見られた。 ・動物のワニを黙々と作り、家にもち帰りたいと話し、満足していく姿が見られた。	・新たに素材や用具をだすことで、新しいイメージがわき、より作ってみたいという気持ちが高まった。 ・友達と一緒にイメージを表現するには、幼児と共に環境の構成をすることも必要だった。

「どうやって作るの？
教えて～」



(7) 保育の展開

指導案	平成 23 年 12 月 1 日（木）	北丘幼稚園	男児	16 名	16 名	計 32 名
前日までの幼児の姿		◇予想される幼児の姿 ○環境構成 ★教師の援助				
・牛乳パックを使つての「ペットごっこ」で友達と「名前書こうか」「ペットにひもをつけてお散歩しようか」と、会話を楽しみながら、遊ぶ姿が見られた ・牛乳パックを使つて、切ったり、組み立てたりしながら、動物のワニを作りあげた自信から、興味をもった幼児に教えていく姿が見られた。 ・しかけごっこで、自分の思いが通らずにトラブルが出てきた。 ・折り紙サイズに切ったチラシで、飛行機や手裏剣を作る姿が見られた。		しかけごっこ ◇友達同士で段ボールを使つてしかけを作つて遊ぶ。 ◇それぞれの幼児が、自分の思いを話しながら、遊びを進める。 ○麻ひも・布・粘着テープ・段ボール箱を幼児と共に準備する。 ★幼児と一緒にしかけをどうやって作りたいのかを子どもの気持ち聞きながら、かかわる。 ★幼児の思っている気持ちを整理したりしながら、友達に伝えるきっかけをつくる。				
○ねらい *内容						
○自分の思いを出し合つて、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。						
*素材を使つて、作り、友達と思いを出し合つて、遊ぶ。						
時間	幼児の予想される活動	ペットごっこ ◇友達同士で、牛乳パックにペットを作り、絵をかいたり、名前を書いたりして楽しんでいる。 ○ペットを入れるお菓子箱を準備する。 ★友達同士のやりとりをみて「手伝つて」と、話すときに援助をする。 作つて遊ぶ ◇本を見て、動物のワニを作ったりして、遊んでいる。 ○牛乳パック・セロテープ・マジック ★一人の幼児が、黙々と作り、友達に教えている姿を見守る。 ◇折り紙の本を見ながら手裏剣や飛行機を作ったりして遊ぶ。				
9:00	〈室内遊び〉					
	・しかけごっこ					
	・ペットごっこ					
	・作つて遊ぶなど					
10:15	～担任へ引き渡す～					
反省 評価	・素材を使い、思いを出し合つて、友達と一緒に遊ぶことができたか。					

(8) 検証の結果

【幼児の変容】
・じっくりと素材にかかわつて遊ぶことで、工夫が見られ、思いを込めて作ったことで充実感を味わう姿が見られた。 ・幼児が、思いを込めてつくりあげたことで満足し、作り方がわからない幼児に教えていく姿が見られた。 ・幼児同士のかかわりで、自分の思いと他の幼児との思いに違いがあることを知り、葛藤するが、友達と一緒に遊びたいことから、自分の気持ちを抑えようとする姿がみられた。 ・幼児同士で、作った牛乳パックのペットからペットショーへ遊びが発展していく姿が見られた。
【改善点】
・教師は、幼児同士がイメージを表現するための素材や用具を用意し、幼児と共に環境を構成する。 ・幼児が表現する過程をたのしめるような援助の工夫をする。

環境の工夫の視点①

〈幼児の要求に応じて素材を精選する〉



素材の精選（牛乳パック・割りばし・ペットボトル・ストロー・段ボール箱・）など数を少なく準備することで、工夫して作る姿が見られた。

環境の工夫の視点②

〈素材とじっくりかかわれる場を持つ〉



友達同士で牛乳パックのペットごっこをする場を決めていくことやじっくり素材にかかわることで工夫が見られた。

援助の視点①〈幼児の興味・関心に寄り添う〉



しかけごっこで、幼児同士が、イメージを実現できるように幼児と共に考えていくことで、幼児同士で、思いを出して楽しむ姿が見られるようになった。

援助の視点②〈幼児の表現する姿に温かく見守り共感する〉



幼児同士が、アイデアを出しながら、じっくり遊ぶ姿を温かく見守り、素朴な表現を共感していくことで、ペットショーへ遊びが発展していった。

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 幼児が自分なりのイメージを実現し、幼児の興味や関心をもった多種多様な素材を使えるなどの環境を工夫することで、さらにイメージをふくらませ、表現することができた。〔Ⅵ-2-(6)〕
- (2) 幼児の動線環境を工夫することで、幼児同士の活動意欲が高まった。〔Ⅵ-1-(6)〕
- (3) 幼児が素材そのものとじっくりかかわり、試行錯誤しながらイメージを実現し、やり遂げられるような援助を工夫することで、幼児が達成感を味わった。〔Ⅵ-2-(6)〕
- (4) 幼児の心に寄り添って言葉かけをし、受け止め、共感することや温かく見守るなどの援助を工夫することで、表現する喜びにつながった。〔Ⅵ-2-(6)〕

2 今後の課題

- (1) 幼児らしい見方、考え方、感じ方、などの幼児の心に寄り添った環境構成の工夫。
〔Ⅵ-1-(6)、Ⅵ-2-(6)〕
- (2) 幼児同士が、共通のイメージを持ち、共通の体験を積み重ねられる環境の工夫。
〔Ⅵ-1-(6)、Ⅵ-2-(6)〕

《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館	2008年
花原幹夫編著	『保育内容 表現』北大路書房	2009年
無藤隆 柴崎正行 秋田喜代美編著	『幼稚園教育要領の基本と解説』フレーベル館	2011年
無藤隆 柴崎正行編著	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて 別冊「発達」29』ミネルヴァ書房	2009年
西久保礼造著	『保育実践用語事典』ぎょうせい	2009年
吉本和子著	『幼児保育一 子どもが主体的に遊ぶために』	2003年